

学校だより

はす

ぬま

ちゅう

かがみ

蓮沼中鏡

平成26年度 第17号
平成27年2月27日発行
大田区立蓮沼中学校
校長 大原章博

看脚下

〔足もとを見よ〕

「看脚下」(かんきやつか)あるいは同じ意味の「脚下照顧」(きやつかしょうこ)という木板が禅寺の玄関には、掲げられていることがあります。その意味は、直接的には「足もとを見よ」です。玄関からお堂などにあがるとき足もとを見ると脱いだ履物が目に入ります。つまり、「履物をちゃんとそろえましょう」という教えなのです。しかし、この言葉にはもっと深い意味があります。

「看脚下」という言葉は、中国の宋代の臨済禅師、園悟克勤(えんご こくごん)の言葉として伝わっています。今から約900年前の中国で、法演というお坊さんが、闇夜に3人の弟子を連れて歩いていました。そのとき突然、提灯の明かりが消えて辺りは真っ暗になり、一行は立ち往生しました。

そこで法演は、3人の弟子に向かって質問します。「この暗闇でひとこと言ってみろ。」真っ暗になったとき、何をしなければならぬのかを聞いたのです。

弟子たちは三人三様の答えを出しました。「真っ暗な中に青龍がいる。」「真っ暗であるがゆえにはっきりと見える一条の光。」と答えたそうです。その中の一人 園悟克勤 は「看脚下」と答えました。

すると、法演は、「そのとおりだ」と言って、賞賛しました。灯りの消えた真っ暗闇では、目の前にあらぬものを想像し、それに惑わされてしまったり、進むこともできずどうしてよいかわからなくなったりします。そんなときに足もとをしっかりと看るといふ当たり前のことが言える 園悟克勤 を讃えたのでした。

この暗闇は、私たちの人生に例えることができます。「壁にぶち当たったとき」「人生お先真っ暗なとき」です。こんなときにどうするか、ということを考えてみましょう。それに対する答えが「看脚下」なのです。暗闇の中での「足もとを見よ」という言葉。それは、どんなときでも冷静に「今、自分はどんな場所に立っているのか」を知ることの大切さを教えてくれています。そして、「自分の足もとを見て、着実に歩を進めていけば、小さな歩みだったとしても前進していける」ということなのです。

中学生の皆さんもこれから先に、大きな壁にぶち当たって何をしてよいかわからないときがあると思います。そんなとき、あれこれ頭で考えるよりも、まず自分の今がどんな状態なのかを理解し、今行っていることをきちんと少しずつでも良いから行っていくことが大切なのではないかと思えます。

「靴を脱ごうとしているのであれば、まず靴を揃えることから」が重要なのです。人は、未来にも過去にも生きているわけではありません。常に、今を生きています。今の自分をしっかり見つめ、できることを一つずつ行っていくことしかないのではないのでしょうか。一步一步、自分の歩みを前進させるしかないのです。自分の立場や周囲の状況を謙虚に見つめ、まず自分の足もとから正していかなければならないということなのです。

いよいよ1年のまとめの時期です。1年は1年なりに、2年は2年なりに、そして義務教育を終える3年は、自分の進路の実現や夢をつかむために、「看脚下」という言葉を心のどこかに置いておいてください。



目標は、“自らなすべきこと”を少しずつ、ひたむきに行うことによって、達成することができます。また、そのような姿勢が、学校生活をともにする仲間や家族や周囲の人々の共感呼び、皆で一つのことを成し遂げる力となっていくと信じています。

中学生「東京駅伝」

第6回中学生「東京駅伝」大会



2月8日(日)に第6回中学生「東京駅伝」大会が、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園特設周回コースにて行われました。男子17人・42.195km、女子16人・30kmの距離で、東京23区、27市町の計50チームによって競いました。

大田区からも、男子11校、女子13校から選抜された2年生が懸命の走りを見せてくれました。残念ながら、本校からは選抜されませんでした。選手は11月8日から土日を返上して、11回の練習を重ねてきました。そして、12月7日には、結団式を池上会館で行い、この大会に臨む決意を表明しました。

当日は、あいにくの雨模様の天候で、気温も5℃というコンディションの中、スタートしました。午前の女子の部では、8位入賞、そして午後の男子の部では、15位という結果でした。



この大会は、来年も行われます。対象は、来年度の2年生です。ですから、1年生は日頃の体育の授業や、部活動、自己トレーニングで、走り込みをして長距離走に強くなって、選手になることをねらってほしいと思っています。

1組 連合鑑賞教室&お別れ遠足

2月13日(金)には「特別支援学級連合鑑賞教室」がアプリコ大ホールにて開催されました。今年度の演目は、民族歌舞団「荒馬座」による『囃し囃され荒馬祭り』で、エイサー・獅子舞・荒馬踊り・虎舞・ソーラン節・ぶち合わせ太鼓を鑑賞しました。1組の生徒は、すでに1月29日にワークショップを体験し、太鼓を実際に体験し、ソーラン節では各中学校代表生徒1名が舞台上上がり、劇団員の方と一緒に演奏もしました。

今回の鑑賞教室では、生徒も参加する場面のある演目がありました。沖縄の「エイサー」では踊りを、「獅子舞」では舞台から客席に降りてきた獅子に頭をかまれ、「荒馬踊り」では「エッセラー、エッセラー」の掛け声をかけ、生徒は楽しく参加し、じっくりと鑑賞しました。迫力ある太鼓の響きや踊りに驚きと同時に感動していました。よい経験になりました。

2月20日(金)には、1組の「お別れ遠足」で東京ディズニーランドに行ってきました。当日は、晴天に恵まれ暖かい1日となり、3つの班に分かれて行動し、お土産を買ったり、お昼を食べたり、アトラクションに乗ったりして1日を楽しみました。



生徒の活躍

国語科……大田区席書会参加(1年・佐野、2年・西川、陳) 1/30

大田区書初め展出品(1年・佐野、竹内、松浦、野池、2年・西川、陳、本、佐々木花月

3年・我伊野、神田、新田、志村 1組・菊地、中山、村上、カサキ) 1/24~30

技術家庭科……東京都公立美術展覧会出品

(3年・林【砂時計】、2年・杉崎【ウェディングドレスの物語】) 2/9~14

